

3/18

境町と郵便局との包括連携協定を締結

3月18日(月)に役場で、境町と郵便局が両者の発展と町民サービスの向上を推進するため、包括連携協定を締結しました。町内の郵便局のネットワークを生かした地域見守り活動や道路情報の提供に加え、町の魅力発信などで協力を強化します。

協定締結式には、茨城境郵便局の飯田剛局長をはじめとする町内郵便局長、並びに古河市の三和郵便局の茂木克己局長等が出席しました。災害発生時の協力に関すること、地域見守り活動に関すること、道路損傷に関すること、廃棄物等の不法投棄に関すること、広報・宣伝に関すること、その他町民サービスの向上及び地域社会の活性化に関することの協定書に調印し、連携して取り組みます。



締結式の様子

3/19

民間運営のグランピング施設が誕生！

3月19日(火)、姉妹都市・ホノルル市があるハワイをイメージして整備したグランピング施設「アロハ グランピング リゾート サカイ」の落成式が行われました。

この施設は町の交流人口を増やすための施策の一つとして、西泉田の約1ヘクタールの森林の中にハワイのリゾート地をイメージした、2~6人で泊まれる2階建てコテージ4棟、通常のキャンプ用テントサイト12区画と屋外サウナなどが整備され、手ぶらで気軽にキャンプが楽しめます。

施設は、4月1日(月)にグランドオープンし、全国から宿泊客が訪れています。

施設運営は新たに設立された民間会社(Summy 株式会社)が指定管理者として運営し、町に賃料を支払う仕組みです。



落成式の様子



グランピング施設が完成しました

3/15

アイレットハウス マハロタウン(戸建住宅)が完成！ 22件が移住

3月15日(金)、子育て・新婚世帯を対象とした定住促進住宅「アイレットハウス マハロタウン」が完成し、落成式が行われました。

PFIを活用した戸建タイプの賃貸住宅は、昨年度の「オハナタウン」に続く第2弾で、3LDK・延床面積30坪の住宅を全27棟(住吉町22棟・上町5棟)整備しました。25年間住み続けると土地・建物が無償でもらえる住宅となっており、北は秋田県から南は沖縄県、さらに海外はカナダやベトナムから、併せて約230件もの申し込みがありました。本住宅への入居により、100名を超える子育て・新婚世帯が転入することから、更なる定住人口の増加や地域の活性化が見込まれます。



落成式での様子

3/18

ハワイ州ホノルル市アリアマヌ中学校の生徒が町長を表敬訪問

3月17日(日)、境町の中学校2校と(2019年12月に)姉妹校協定を締結しているホノルル市の州立アリアマヌ中学校の生徒15人と教職員が来日しました。

翌18日(月)には、アリアマヌ中学校一行が橋本町長を表敬訪問し、フラダンスの披露と記念品の手作りボードが贈呈され、町と町立中学校からは、オリジナルTシャツとメッセージボードを贈呈しました。21日(木)までの滞在期間中、アリアマヌ中の生徒たちは、境町の児童生徒の家にホームステイしながら、境一中の11人と境二中の4人に分かれ、それぞれの学校に登校しました。各中学校では、書道体験や剣道体験など日本の文化に触れながら生徒たちが交流を深めました。また、アリアマヌ中教諭による特別授業として、ハワイ語の授業やレイ作り、ハワイアンカヌーの授業が行われました。



表敬訪問では、アリアマヌ中学校の生徒によるフラダンスが披露されました

2/21

東京五輪で使用されたBMXパークを境町に移設！屋根付きの施設が完成！

2月21日(水)、BMXやインラインスケートなどが楽しめる、世界最高レベルの屋内型競技場「境町アーバンスポーツパーク 2nd (セカンド)」の完成式典が開催されました。

本施設は、東京五輪で使用したBMXの競技施設を移設しレガシー(遺産)を引き継いだもので、五輪のオブジェや「TOKYO2020」のロゴマークを残しつつ、雨の日でも使用できるよう施設全体に屋根と照明を整備しました。式典には、東京五輪男子BMXフリースタイル・パーク金メダリストのローガン・マーティン選手(豪州)ら約260人が出席し完成を祝ったほか、ローガン選手らがデモンストレーションを行い、来場した子ども達らを楽しませてくれました。今後、世界最高峰のアーバンスポーツの総合国際大会である「FISEワールドシリーズ」など、本施設で主要な国際大会等を開催していく予定です。



デモンストレーションの様子

3/3

第1回さかいまち国際児童画展を開催

令和6年2月1日(木)~3月24日(日)、S-Gallery 齋竊美術館において、町と親交のある海外の子どもたちが描いた絵画作品を展示する「第1回 さかいまち国際児童画展」が開催され、3月3日(日)、境町中央公民館にて授賞式が開かれました。同展は、姉妹都市のホノルル市とフィリピンマリキナ市、長年親交のあるアルゼンチンの子どもたちなど4歳から15歳を対象に実施。海外からの64点を含め計1457点の応募があり、米国ハワイ州ホノルル市の小学1年生のケンジー・ヤマダさん(6)と、長田小学校4年生の飯田紬希さん(10)が大賞に輝きました。

大賞の飯田さんは、忍田暢男教育長から表彰され、笑顔で賞状を受け取りました。もう一人、大賞に輝いたケンジー・ヤマダさん(6)は3月22日(金)、境町を訪れ、橋本正裕町長から賞状が贈られました。



大賞を受賞した飯田紬希さん(前列中央)



大賞を受賞したケンジー・ヤマダさん(前列左)とご家族

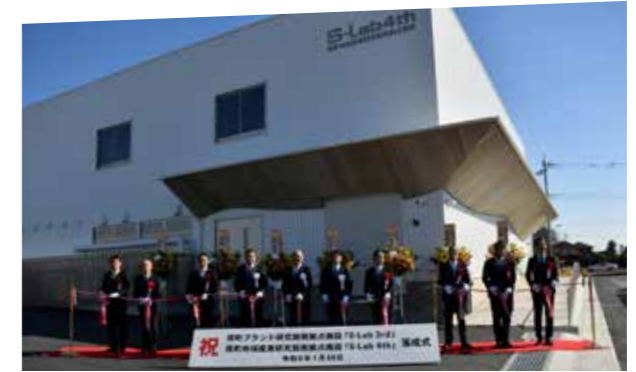
1/30

うなぎの加工工場がOPEN！

1月30日(火)、上小橋にて、ふるさと納税の返礼品等にも活用できる新たな特産品の研究開発・加工等を行う施設が完成しました。

ウナギの研究開発・加工施設は、町などが主導する「利根川鰻(うなぎ)復活プロジェクト」に賛同した建築家・隈研吾氏の設計で、建物の外装は、杉板を曲線的に配してウナギの姿を表現しています。宮崎県の榎大森淡水が提供する良質なウナギを加工し、1日最大5千匹を取り扱います。サツマイモの研究開発・加工施設は、返礼品の干し芋が好評のため増設されたもので、保管庫は100~200トンが収納可能で、室温13度で熟成させることができる設備になっています。

両施設とも、さかいまちづくり公社が指定管理者として運営し、町に賃料を支払う仕組みになっています。



落成式での様子

2/9

トレーラーハウスを石川県能登町に貸与

町は、能登町長からの依頼を受けて、能登半島地震で復旧活動に従事する人の宿泊施設として、町が所有するトレーラーハウス2台を石川県能登町へ送ることを決め、2月9日(金)に出発式を行い、13日(火)に現地で引き渡しを行いました。

能登町では、およそ5,000戸の住宅が全壊や半壊などの被害が発生し、道路などの復旧活動が進められています。これら復旧活動にあたる人々の中には、町内に宿泊できず県外から毎日通う人もいることから、こうした人々たちのために復旧・復興拠点の宿泊施設として設置されたものです。トレーラーハウスは、企業版ふるさと納税で境町に寄贈されたもので、宿泊タイプとして浴室やトイレのほか、キッチンやエアコンも備え付けられています。なお、能登町へは2年間、無償で貸与されます。



石川県能登町に送ったトレーラーハウス